[本資料は、高松、松山、八幡浜および東京で発表しています。]

Press Release



平成24年 8月 7日四国電力株式会社

伊方発電所 1 号機ストレステスト報告書における誤記について

当社は、伊方発電所2号機ストレステスト報告書提出に向けて準備を進めておりますが、報告書のチェックの過程で伊方発電所1号機と比較していたところ、伊方発電所1号機ストレステスト報告書の図面に誤記を確認しました。

調査の結果、報告書作成時の最終段階でのチェックで図面の文字を修正したところ、 寸法数字等が意図せずに変更されて、それに気づかず報告書を提出していたことが確 認されました。

なお、ストレステストの評価には正しい寸法を用いており、評価結果に影響はありません。

また、伊方発電所1号機ストレステスト報告書について、改めてチェックし、同様 の誤記がないことを確認しました。

(別紙)

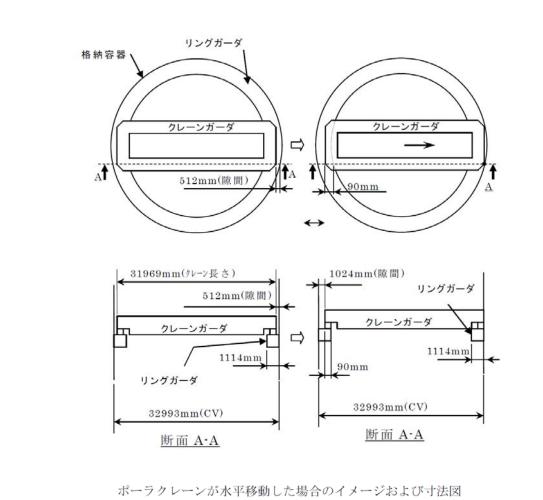
正誤表

以上

4. 1 地震

ているリングガーダより、クレーンガーダの方が大きいため、クレーンが落下することはないと考えられる。(伊方1号機の寸法を下記に示す。) よって、当該クレーンは評価対象設備として取り扱わないものとする。

ポーラクレーンが水平移動した場合、以下の図より、クレーンが建屋との隙間分移動した場合においても 90mm の掛かり代があり、クレーンが下部に落下することはない。

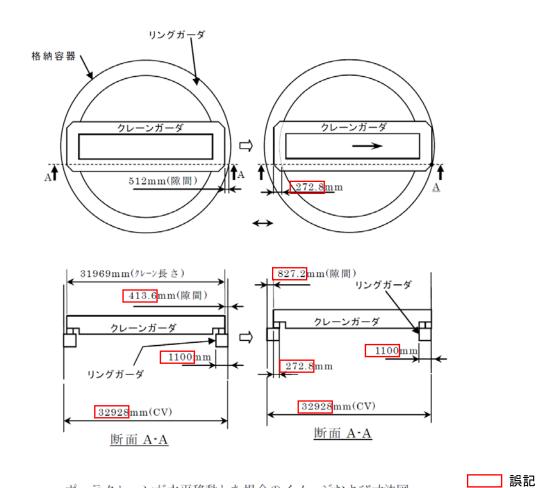


ポーラクレーンが水平移動した場合、以下の図より、クレーンが建屋との隙間分移動した場合においても 90mm の掛かり代があり、クレーンが下部に落下することはない。

ているリングガーダより、クレーンガーダの方が大きいため、クレーンが落下するこ

よって、当該クレーンは評価対象設備として取り扱わないものとする。

とはないと考えられる。(伊方1号機の寸法を下記に示す。)



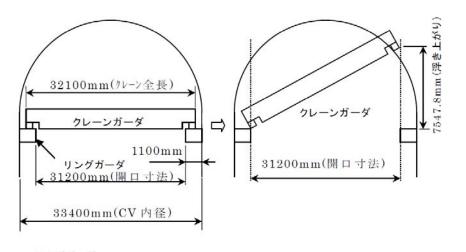
ポーラクレーンが水平移動した場合のイメージおよび寸法図

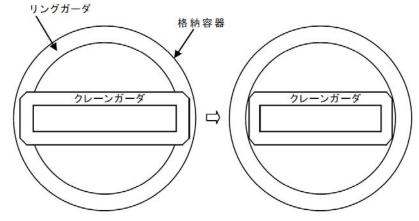
正

添付-4.1.8(15/20)

補足③

ポーラクレーンがリングガーダの開口部から落下するためには以下の図のように 斜めに浮き上がりが発生した場合が考えられるが、単純に評価した場合でも浮き上が り量が約7.5m 必要となり、Ss 地震評価でも最大浮き上がり量は0.8mm 程度であり、 十分な余裕がある。(実際には建屋との干渉もあり、浮き上がりは制限される)



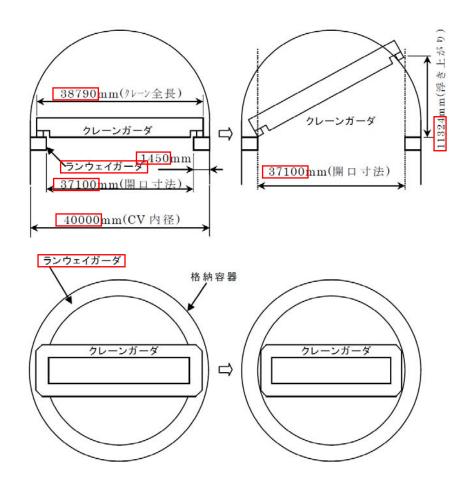


ポーラクレーンが浮き上がった場合のイメージおよび寸法図

添付-4.1.8(15/20) 補足③

ポーラクレーンがリングガーダの開口部から落下するためには以下の図のように 斜めに浮き上がりが発生した場合が考えられるが、単純に評価した場合でも浮き上が り量が約7.5m 必要となり、Ss 地震評価でも最大浮き上がり量は0.8mm 程度であり、 十分な余裕がある。(実際には建屋との干渉もあり、浮き上がりは制限される)

誤



ポーラクレーンが浮き上がった場合のイメージおよび寸法図